

第 1 回経営向上懇話会でいただいた意見に対する取組状況について

(平成 23 年 10 月 25 日開催)

平成 23 年 1 月末現在

【新県立博物館のコンセプトや狙いに関するご意見】

ご意見	反映状況
新県立博物館の<u>基本コンセプトや魅力</u>（売りとなる部分）がしっかりとしていることが成功の鍵である。	- いわゆる“キラコンテンツ”のようなものはありませんが、日本の縮図とも言えるような多様な自然や歴史・文化を有する三重には、国内外に誇れる魅力がたくさんあります。 - 新県立博物館は、県民の皆さんとともに、こうした魅力を掘り起こし、発信することで、自分が生まれ育った地域に誇りを持ち、生きていく上での心の支えとしていけるよう、「人づくり」「地域づくり」への貢献が果たせる場になると考えており、こうした理念・使命のもとで様々な活動を進めていきます。
昔のものの収集だけでなく、三重の未来像を模型で示すなど、<u>未来への希望</u>を与える内容にしてほしい。	- 常設的には三重の未来像を示す模型は設置しませんが、三重や地域のアイデンティティを確認でき、将来さらに良くしようとする契機となるメッセージを込めた展示にします。 - なお、企画テーマ展示室では、未来像や希望・夢を紹介する展示も実施可能であるため、今後の展示計画の中で検討していきます。
イギリスのある美術館では、これまで博物館に関係ないと思っていた地方の女性が織っている織物に焦点を当て、作品として美術館に展示することで、<u>生活の中にある価値を発見して、アイデンティティの確認や地域づくりにつなげていく</u>取組を行っているので参考になる。	- 新県立博物館においても、埋もれてしまっている地域の魅力を、県民の皆さんとともに発掘し、発信していくことで、アイデンティティの確認や地域づくりにつなげていくことを目指しています。 - そのためにも、これまで博物館は自分に関係ないと思っけていても、自分にあった博物館の使い方があることを伝えながら、様々な取組に参画していただけるような取組をしていきます。 (例)・子どもたちのグループが、学芸員のサポー

	トのもと実施した「地域の宝・魅力さがし」・県民の皆さんから「くらしの写真」を募り、いただいた写真を新県立博物館の展示に取り入れる「三重のくらしの写真収集プロジェクト」
・ 展示に「あそこに行けばこれが<u>体験できる</u>」という仕掛けがあると、集客しやすい。	・ 「こども体験展示室」「三重の実物図鑑ルーム」「ミュージアムフィールド」等で様々な体験をしていただけるようにします。
・ 一般的に、美術館と比べて<u>博物館は展示内容があまり替わらない</u>という印象があり、「もう一度行きたい」という気がなくなってしまう。例えば、館内で講演会を開催するにしても、博物館に<u>直接関係ないテーマでも開催する</u>など、柔軟な対応が必要。	・ 新県立博物館では、複数のテーマ展示室を用意しており、これらをフレキシブルに組み合わせて様々な展示を実施し、随時更新していくこととしています。 ・ また、展示だけでなく、ワークショップなどの多彩な催しも実施することとしており、講演会を開催するにあたっては、様々なテーマを設定するなど、柔軟に対応していく予定です。
・ 県外から三重県に来た者にとっては、三重県の印象は「<u>神宮</u>」である。三重県の風土、文化を考えると抜くことができない要素。 ・ 開館前後は遷宮もあり、<u>神宮</u>とは切っても切れない関係である。連携の相手先として、企業だけでなく神宮司庁が入っていてもいいくらい。	・ 伊勢神宮については、宗教としての伊勢神宮を取り上げるのではなく、人々の交流の歴史という文化的、学術的な側面からとらえ、基本展示において御師を切り口にして紹介することとしています。

【広報のあり方、多様な主体との連携方策に関するご意見】

ご意見	反映状況
・ 広報に関する<u>トータルプラン</u>（時期、手法、重点とすべき点）が必要。 ・ <u>事業の内容、その優先順位、エネルギーのかけ方</u>を明確にすべき。 ・ 広報や連携の<u>手法とその費用とのバランス</u>が重要。	・ 時期、手法、重点とすべき点等をおさえた広報戦略を策定し、実行していきます。（※）詳細は資料２－１～２－３でご説明します。
・ 建物が完成するまでは宣伝してもあまり効果は上がらない。ある程度割り切って、まずは組織や体制といった内部を固め、<u>開館前年に大々的に広報</u>した方がよい。	・ 広報戦略に位置づけ、実行していく中で参考とさせていただきます。（※）詳細は資料２－１～２－３でご説明します。

・ 多額の広報費が見込めないのであれば、現博物館で活動する「サポートスタッフ」のロコミで広げていくという戦略も考えられる。 ・ <u>総合文化センターに来る人は文化に関心のある人であり、継続的に働きかけていくことが必要。</u> ・ 平成25、26年には、三重を売り込める様々な出来事がある。これらについて関係者がプロジェクトチームを組んで横断的に進めて欲しい。 ・ 3年後、5年後の展示までPRして、博物館に行ってみたいと思わせる打ち出しや、<u>観光ルートに必ず組み入れてもらう</u>ような取組が必要。 ・ 広報手法に真面目なものが多いので、キャッチコピーをつけるなど、<u>もっとフェイントがあってもいい。</u>	
・ <u>子どもたちにとって記念になるような取組が必要。</u>親にとっても「子どもが何歳の時の記念」ということで記憶に残る。子どもにとっての思い出となり、ふるさと意識となるような取組をしてほしい。 ・ <u>ミエゾウをモチーフにしたキャラクターを募集</u>して、受賞した作品をつくった子どもにオープニングの日に来てもらうこともしてはどうか。 ・ 博物館自体の<u>愛称</u>を決めてはどうか。	・ 「みえ・マイミュージアム・プロジェクト（MMMプロジェクト）」(※)の一つとして実施したいと考えています。 (※)「みえ・マイミュージアム・プロジェクト」 新県立博物館の開館に向けた、県民の方々の体験型・参加型による各種活動を「みえ・マイミュージアム・プロジェクト（MMMプロジェクト）」と名付け、開館までシリーズとして展開することとしています。
・ 猪熊弦一郎現代美術館（香川県丸亀市）では、地元中小企業との連携という観点で、1口5万円で4口集まった日を「<u>コーポレート・デー</u>」と定め、この日に<u>来館された方全員を無料</u>としている。 ・ 新聞を教育に使う取組（NIE）が進められているが、<u>博物館のことを書いた新聞を学校で使ってもらう取組</u>をしてはどうか。 ・ 市町や民間の美術館・博物館との連携を図ってはどうか。新博物館に行けば他館	・ 企業や学校等との連携方策を検討する中で、参考とさせていただきます。 (※) 詳細は資料2-1～2-3でご説明します。 ・ なお、県内の博物館との連携は、新県立博物館が目指す「3つの方向性」の一つでもあります。新県立博物館では、情報コーナーにおいて県内博物館の紹介を行うほか、例えばテーマ展示への資料寄託や、連動企画の実施など、今後の展示計画の中で検討していきます。

の情報が入るような、いわば<u>県内博物館の「ハブ」</u>としての機能を果たしてはどうか。 ・ <u>神宮徴古館</u>には素晴らしい収蔵資料がある。同館で展示された収蔵資料は20年で入れ替わるので、<u>これら新博物館で受けることはできないか。</u>	
・ 現在、津駅構内の看板は建物のイラストとなっている。展示だけでなく様々な活動をメインとした博物館であるならば、建物のイラストを止めて、<u>期待感を抱かせる内容に代えた方がよい。</u>	・ 看板掲示期間の更新（本年4月）にあたって、内容を変更する予定です。

【運営・経営に関するご意見】

ご意見	反映状況
・ 近年、企業から寄付を募ることが難しい状況の中で、年間運営費4.5億円の2割を民間資金で賄おうとするならば、例えばIR活動（企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を提供する活動）の一環と位置づけられるような、<u>企業にとってのメリットを示していく必要がある。</u>	・ 連携にあたっては、一方的な協力依頼ではなく、双方にとってのメリットとなるような取組を念頭に置き、協力を求めています。
・ 収支計画は、開館前年（平成25年度）ではなく、<u>もう1年早く</u>詰めておく必要がある。	・ 昨年末の県議会常任委員会において、収支計画のたたき台をご提示したところです。今後、精査を進め、最終的な収支計画を平成25年度に策定します。 (※) 詳細は資料3、資料4でご説明します。
・ <u>運営するための組織</u>をどうするかが重要なポイント。その上で、予算、資金の使途、企画を決めていくことになる。 ・ 総合文化センター及び美術館と<u>一体的な管理運営</u>をしてはどうか。 ・ <u>三重県の文化施設全体で一つの基金</u>を設けるなど、思い切った取組が必要ではないか。 ・ 職員に、どうやって運営していくかという視点が弱く、<u>営業力の強化</u>が必要。 ・ 東京都写真美術館では<u>専門スタッフ</u>が営業を行い、100社以上が協賛会員とな	・ 今後、運営や組織のあり方を検討する中で参考とさせていただきます。

っている。集めた資金で資料を購入して企画展を行い、専門スタッフの給料も、集めた資金から捻出している。 ・ 博物館の職員が多様な仕事をしなければならないのは大変であり、例えばNPOをつくるなどして、<u>任せられるところは任せてはどうか。</u>	
---	--

